

「ソーシャル・ビュー——見えない人と楽しむ美術鑑賞」

出典：光村図書「中学道徳3 きみがいちばん ひかるとき」

学年 3年 内容項目 B（9）相互理解、寛容

山口県周南市立富田中学校 教諭

中村迪子

ねらい 多様な人と関わることの意義について考えることを通して、他者の見方を知ると同時に自分についても客観的に見つめることができることに気づき、多くの人と積極的に関わっていかうとする道徳的実践意欲を培う。

わたしの授業、ポイントはココ

自分へも視点を向ける

3年生の大切な時期、自分を見つめ、これからの生き方について思いをはせてほしいと考えました。

本教材の内容項目は、「相互理解、寛容」です。**相互理解**という、**相手を理解することに目を向けがちですが、自分を理解することが前提としてある**と思います。そして、より豊かな人生を送るために、自分にはないものを他者から学ぼうとする姿勢が大切だと思います。そこで、他者だけでなく、自分を客観的に見つめることの大切さに気づけるよう展開を考えました。

「楽しさ」と「難しさ」の両面を見つめる

冒頭で、教材の共通理解を深めるために疑似体験の場を設定しました。何気ないやり取りの中で、自分と他者のものの見方や捉え方の違いに気づくことができ、ねらいに迫ることができると考えたためです。その後、中心的な発問をすることで、**人との関わりに「楽しさ」と「難しさ」があること、他者との違いに気づくこと、視野が広がることなど、相手理解のみにとどまらない意見**が出ました。最後に教材の後段を範読し、他者との関わりの中で、自分にはないものを取り入れることのよさを確認しました。

中村先生の授業、ココに注目！

実際に「ソーシャル・ビュー」を生徒が体験する実践、非常におもしろいです。この教材の醍醐味は、「ソーシャル・ビュー」を通じて、一人一人の違いが生きる社会を実現していくにはどうすればいいかを考える点にあります。中村先生の実践は、「相互理解、寛容」という価値について、他者との対話の中で「さまざまな人と関わる意義」を深めていっているといえます。終末で本文を最後まで読んでいますが、筆者の主張を知ったうえで、他者とともに生きていく社会の実現について考えたほうが、より深まったのではないのでしょうか。

立命館大学大学院 教授

荒木寿友

教材の内容(あらすじ) 全盲の白鳥建二さんは、目の見える人と対話をしながら絵画を鑑賞する方法を考え出した。著者の伊藤亜紗さんは、この方法を「ソーシャル・ビュー」と名付けた。目の見えない人の問いに答え、試行錯誤しながら伝え合うことで、作品解釈がより豊かになる。「助けてあげなきゃ」ではなく、「いっしょにする」ことが大事なのだ。共同で何かをするとき、「一人一人の違い」が生かされる。

「ソーシャル・ビュー」を体験的に味わう

発問 「ソーシャル・ビュー」を体験しましょう。

- ①教師が教科書の記述を基に、「ソーシャル・ビュー」のやり方を説明する。この時点で、筆者の考えが書かれた後段は読まないでよく。
- ②4人でグループを作り、そのうち1名を「見えない人」、他3名を「見える人」の設定とした。「タンギー爺さんの肖像」（ゴッホ 作）を巡る活動とし、役割の入れ替えなどは行わず、5分程度の活動とした。
- ③「ソーシャル・ビュー」を体験した感想を、グループ内で話し合わせた。
 - 情報を伝える順番やたとえ方が難しい。（見える人役）
 - 形を伝えても、相手がイメージできているかわからないところが難しい。（見える人役）
 - 想像することの楽しさが味わえる。（見えない人役）
 - 常に「どんな？」という疑問がついて回る。（見えない人役）

考えよう（考えるテーマ）：他者と関わっていくことの意義を考えよう。

学習課題について、小集団や全体での話し合いを通して考える

中心的な発問 社会には、視覚障害者に限らず、さまざまな人がいます。さまざまな人と関わることの意義は何でしょうか。（個人→小集団→全体で考える）

- 見えない人の役をしたことで、初めて言葉から想像する経験ができた。いろいろな感じ方、考え方があるのだと思った。
- 同じ見える人役でも、いろいろな感じ方があるのだと実感できた。新しい見方や考え方に触れることができるし、視野が広がる。
- 相手が「ああ、何となくわかった」と言ってくれた。共感できたとき、うれしいと感じた。
- 言葉が頼りだったので、どうすれば伝わるかをいろいろと考えた。コミュニケーションを取ることは楽しい。
- 自分と他者の価値観の違いに気づくことができる。

▶他者との違いに気づくのは、楽しさばかりですか。難しさも感じませんか。

- 他者の考えを知り、楽しさも増えるけれど、考え方や情報を共有する難しさが増えると思った。それを乗り越えることが大切。
- 違いがあると、わかり合うことに難しさを感じるけれど、その難しさがあるから、もっと深く、自分のことも人のことも知ろうと思える。
- 人との違いに気づくためには、自分をしっかり見つめていなければならない。自分を見つめることと、人と関わることはつながっている。
- いろいろな人と関われば関わるほど、自分のことも知ることができる。

本時の振り返りをする

発問 ワークシートに今日の授業の振り返りを書きましょう。

- 例えば、足が速いことは、自分だけではわからない。人と比べてわかる。違いがあるから、それぞれが自分のことを知ることにつながる。

単に「見える人による解説」でないことを伝える。教師が各グループを回り、「その言い方で伝わるかな」「『青』ってどんな青？」など、生徒が対話的に言葉を交わし合えるよう、適宜助言を行った。

やり取りのしやすさを考えて、著名な絵を対象としたが、双方に絵のイメージがある程度共有されていたので、醍醐味に欠けたと感じた。双方が見たことのない絵を対象にしたほうが、効果的であったかもしれない。

上記の体験で、見える人の役どうしても、表現やイメージのもち方に違いがあったことを想起させ、一人一人に違いがあることを確認する。

個人でワークシートに書かせた後、「ソーシャル・ビュー」を体験したグループの単位で話し合わせた。グループで出た意見は、代表者が全体に報告する形とした。報告の際には、出た意見をなるべく全て報告させ、板書上で類似の考えなどを関連づけながら全体で共有した。

よい面しか発言しない生徒に、もう一歩踏み込んで考えさせたいと思った。「楽しさ」だけではなく、「難しさ」の先に何があるのか、「難しさ」の積極的な意味を考えさせたいと考えた。

教材の後段を範読し、さまざまな人の存在こそが、自分自身を見つめさせ、人生を豊かなものにしてくれることについて考えを深める。

考えたことを自分の体験等に結び付けて、振り返らせる。